

ニューコース学習システム 活用事例

中間市立中間北中学校 戸高英貴先生（研究主任）



福岡県中間市は、地方創生の施策の一つとして、教育環境の整備と教育レベルの飛躍的向上を推進する「教育の街」を掲げ、GIGAスクール構想での児童生徒の学びのあり方の具体化と、それを支える教員の働き方改革を支援する業務負担軽減施策について、実証研究を進めています。

2021年度、全小中学校に一人一台端末を整備し、学研のデジタル学習ドリル「ニューコース学習システム」、デジタル百科事典「ニューワイド教材ライブラリ」の使用を開始しました。

今回は、中間市立中間北中学校の研究主任としてICT教育を推進されている戸高先生にお話を伺いました。

使用学年 : 1~3年
使用科目 : 国・数・理・社・英
導入ソフト : ニューコース学習システム
ニューワイド教材ライブラリ

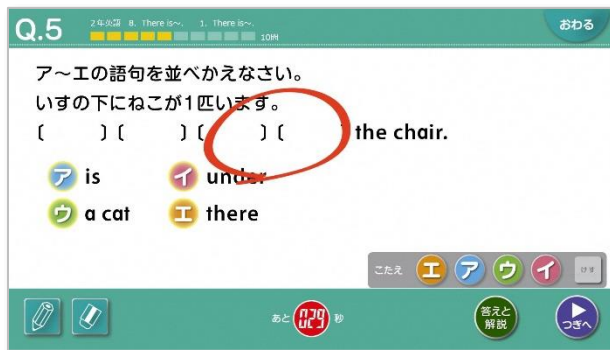
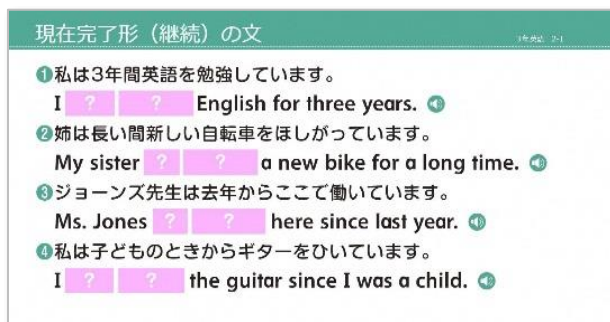
活用シーン

◆私は現在、1年、3年の英語科を担当しています。授業では基本的に「ニューコース」のドリルを使うことが多く、例えば、**文法を学習し終わったら、10分間ドリルに取り組みせる、定期考査前に個別学習の一環として取り組みせる**など、学習内容をしっかりと定着させるために活用しています。

◆「ニューコース」には、穴うめ形式や並べかえ形式など、**さまざまなタイプの問題があるので、ワークの代わりとして使える**点も良いと思います。

他教科の先生からも、一問一答形式などが使いやすいという声も出ています。

◆また、子ども達の学習意欲を引き出すためのツールとしても役立っています。自主学習で取り組む場合などは、学習内容を自分で選択させるようにしています。自分で選ぶことで、自然とその内容を最後まで終わらせようと努力します。これが**学習意欲を育み、主体的に学習に取り組む姿勢につながっています**。



▲「ニューコース」の画面例。さまざまな問題形式で学習できる。

評価ポイント

◆ 英語の場合、単元ごとや文法ごとに学習内容がまとめられているので、苦手な項目を集中的に学習できる点を評価しています。

さらに、日ごろ英語に触れる機会が少ない子ども達にとって、**何度もネイティブ発音の例文を聞いて学習できる**のもとても良い点だと思います。

◆ 教員からは、それぞれの授業デザインに採り入れやすい点が評価されています。すきま時間や自主学習での活用も増え、学校全体でのタブレット学習の頻度が上がりました。

端末を持ち帰らせた際は、配信した宿題の取り組み状況が一覧で確認できるので、自宅学習がしっかりできているかどうか把握することができました。

◆ 子ども達は、問題を解いたとき、○×判定がすぐに出るが楽しいようです。**従来のワークを「ニューコース」に置き換えるだけで学習への気持ちが前向きになる**、子ども達がやりたいと思える仕組みがあるのが「ニューコース」だと思います。

なかには、タブレット学習が苦手という生徒もいますが、将来、より一層、端末を活用する時代になると思いますので、教員がそばについて、一緒に取り組むようにしています。



▲インタビューにご協力いただいた戸高英貴先生

◆ 一人一台端末が整備され、ICT教育としてできることがたくさんある中、それをどのように授業ベースに組み込み、子ども達に何をさせるかという視点がとても大事で、それを考え実践していくのが、私達ICT活用部の使命だと考えています。

◆ 「ニューコース」は、教師目線での使いやすさがあり、生徒目線での取り組みやすさがあり、学校で使うICT教材としてとてもマッチしていると感じています。



▲文法ごとに選べる目次画面(上)。動画解説(下)や要点カードでは、英文を音声で聞くことができる。

インタビュー実施日：2022年2月15日